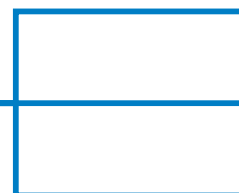


第2部 将来像実現に向けた重点的な取り組み

めざす将来像の実現を力強く先導していくため、まちづくりの6つのテーマを掲げ、重点的に取り組んでいきます。

重点的な取り組みは、それぞれのテーマで効果的な施策や事業を、分野や部局の枠にとらわれず、横断的に進めていくものです。

地球にやさしい日本一のまちづくり



お年寄りや障害者にやさしい日本一のまちづくり



のびのび教育日本一のまちづくり



物語のある観光日本一のまちづくり

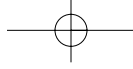


元気、活力日本一のまちづくり



安全、安心日本一のまちづくり





ごみを減らし、資源を有効に利用する

環境にやさしい公共交通機関などの利用を促進する

身近に緑があふれ、自然の大切さを実感できるまちをつくる

お年寄りや障害者の健康や生きがいを推進する

だれもが尊重され、平等に社会参画できるまちをつくる

暮らしを支え合う環境をつくる

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの健全育成に取り組む

郷土の自然・歴史・文化を学ぶ自主的な学習を推進する

スポーツに親しむ機会をふやす

「『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり」を推進する

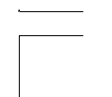
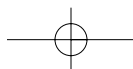
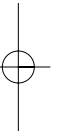
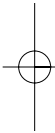
広域的な観光圏づくりや集客・交流施設の整備に取り組む

新しい事業や産業が創造される環境をつくる

中心市街地のにぎわいをつくる

節水型都市づくりを推進し、安定的な水資源を確保する

総合的な防災体制を確立する



地球にやさしい日本一のまちづくり

ごみを減らし、資源を有効に利用する

市民一人ひとりの日常生活や、事務所、工場などの産業活動を通じて、ごみの発生をできる限り抑制するとともに製品の再使用やリサイクルを推進し、資源の有効利用を図ります。

- (主な施策)
- ごみの減量化、再使用、再利用の推進
 - 環境に配慮した産業活動の支援
 - 省資源・省エネルギーの推進

環境にやさしい公共交通機関などの利用を促進する

二酸化炭素などの温室効果ガス※の排出を減らし、エネルギーの効率的な利用を進めるために、路面電車や鉄道、バスなどの公共交通機関の利便性を高めるとともに、自転車などの安全な利用環境を整備し、環境にやさしい交通手段の利用を促進します。

- (主な施策)
- 公共交通機関の利用促進
 - 自転車走行空間や駐輪場の整備、安全な自転車利用の促進

身近に緑があふれ、自然の大切さを実感できるまちをつくる

市民一人ひとりが自然の大切さを学び、実感することができるように、緑や水辺環境の保全、城山公園（堀之内地区）の整備など身近に自然とふれあえる環境づくりを進めるとともに、自然を守り育む市民活動を支援します。

- (主な施策)
- 環境学習の充実
 - 身近な公園・緑化の推進
 - 水辺空間の整備

※温室効果ガス

地表から発せられた熱が宇宙に放出されるのを遮断し、再び地表に放射する効果を持つガスで、二酸化炭素やメタンが代表例。

お年寄りや障害者にやさしい日本一のまちづくり

お年寄りや障害者の健康や生きがいを推進する

お年寄りや障害者が、住み慣れた地域で健康にいきいきと暮らすことができるように、さまざまなニーズに合った福祉サービスの充実や施設の整備を進めるとともに、これまで培ってきた知恵と経験や能力などを生かして、積極的に地域社会へ参画することを支援します。

- (主な施策)
- 保健・福祉・医療サービスの一体的な提供
 - お年寄りや障害者の生きがい活動の支援
 - 人にやさしいまちづくり※の推進

だれもが尊重され、平等に社会参画できるまちをつくる

年齢や性別、出身、障害の有無などによって差別されることなく、だれもが能力と個性を生かして参画することのできる社会を目指して、互いに尊重し合う心を育むとともに、関係機関と連携し人権を守る活動や体制を充実します。

- (主な施策)
- 人権に関する教育・啓発の推進
 - 男女共同参画の推進

暮らしを支え合う環境をつくる

地域の一員としての意識を醸成し、互いに支えあい、助けあって安心して暮らすことのできる環境をつくるため、地域のコミュニティ活動や生活に密着したボランティア活動などを支援します。

- (主な施策)
- 地域コミュニティ活動※の支援
 - ボランティア・NPO※活動の支援

※人にやさしいまちづくり

高齢者や障害者をはじめだれもが安全で快適に暮らせるという観点から都市施設や住環境、交通環境などを整備することや、みんなで支え合う福祉の心の育成などによるまちづくり。

※地域コミュニティ活動

町内会など、地域住民が協力して、地域の暮らしやすさや地域づくりのために行う活動。

※NPO

Non-Profit Organization (非営利組織) の略。福祉、環境、まちづくりなどのさまざまな分野において活動する組織で、株式会社などの営利を追求する企業と異なり、営利を目的としないもの。

のびのび教育日本一のまちづくり

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの健全育成に取り組む

子どもを安心して産み育てることのできる環境をつくり、子どもたちのたくましく生きる力と豊かな人間性を育むために、学校、家庭、地域が一体となって意識づくりや仕組みづくりに取り組みます。

- (主な施策)
- 安心して子育てができるまちづくり
 - 学社融合*の推進
 - 開かれた特色ある学校づくり

郷土の自然・歴史・文化を学ぶ自主的な学習を推進する

先人たちから受け継いできた郷土松山への理解と愛着が深まるよう、自然体験や地域の人々との交流、郷土の豊かな歴史・文化に接する機会を拡充するなど、子どもたちの自主性を育む学習を推進します。

- (主な施策)
- 自然や人とのふれあい体験の充実
 - 自主性・自立性を育む学習の推進

スポーツに親しむ機会をふやす

子どもたちの健やかな心と体を育むために、日頃からスポーツに親しみ、楽しむことができる環境を充実します。さらに、プロスポーツやさまざまな競技大会の誘致など、レベルの高いスポーツに接する機会を増やします。

- (主な施策)
- 総合型地域スポーツクラブ*の育成
 - スポーツ施設の整備充実
 - 各種競技大会の開催・誘致の促進

※学社融合

学校教育と地域教育が学習の場や活動の一部を共有したり連携することで、より豊かな子どもたちの教育を実現すること。

※総合型地域スポーツクラブ

多様な種目のスポーツについて、年齢や体力、技術に応じて、質の高い指導のもとで日常的に活動できる施設を有するスポーツクラブのことで、文部科学省では平成22年までに全国の市区町村で少なくとも1つは育成することを目標としている。

物語のある観光日本一のまちづくり

「『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり※」を推進する

先人たちによって生まれ、培われてきた歴史や伝統文化、自然環境などのさまざまな資源を結びつけて地域全体を博物館とするフィールドミュージアムづくりを進め、感動と安らぎを与える物語性豊かな新しい松山の魅力を創造・発信します。

(主な施策) ○『坂の上の雲』フィールドミュージアム※の整備

広域的な観光圏づくりや集客・交流施設の整備に取り組む

瀬戸内の豊かな自然や松山城、道後温泉をはじめとする歴史文化遺産などの地域資源を生かしながら、四国・瀬戸内海地域と連携した広域的な観光ルートの整備を進めるとともに、関係機関と連携して集客・交流施設の整備に取り組みます。

(主な施策) ○広域的な連携の推進
○観光の魅力づくり
○おもてなしの体制づくり

※「『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり」

司馬遼太郎氏の代表作の一つで、松山にゆかりの深い小説『坂の上の雲』。この物語の舞台となった明治時代の再評価を土台に、3人の主人公（正岡子規、秋山好古・真之兄弟）の持つ、「若さ・明るさ」、「集め・比較すること」、「リアリズムと合理性」、「励む・励ます」の4つのテーマを基本理念として、松山全域をフィールドミュージアムとして捉え、一体的に整備し、「松山らしさ」を演出するとともに、全国に情報発信する計画。平成12年に基本構想、平成13年に基本計画を策定。

※『坂の上の雲』フィールドミュージアム

展示物をミュージアム（博物館）に収集するのではなく、屋外（フィールド）そのものを展示空間と捉えて整備するもので、この構想では市全体を博物館とみため、松山のシンボルであり、フィールドミュージアムの中核となる施設が多く点在する松山城周辺を「センターゾーン」、道後温泉、三津浜港など明治時代の重要な史跡や施設が集中する地域を「サブセンターゾーン」、秋山兄弟の生家跡や子規堂、ロシア人墓地などのかかわりの深い史跡や施設を「サテライト」と位置付ける。さらにその間を巡る回廊型の動線を確認し、ネットワーク化を図ることによって物語のある『坂の上の雲』フィールドミュージアムをつくりだそうというもの。

元気、活力日本一のまちづくり

新しい事業や産業が創造される環境をつくる

商業・サービス業をはじめとする多彩な産業の集積や、大学などの教育研究機関の立地などを生かして、産学官や異業種間などの多様な交流・連携を促進するとともに、経営能力や技術力のある人材の育成や起業を支援し、情報通信・環境分野などで新しい事業や産業が創造される環境づくりを推進します。

- (主な施策)
- 新産業の振興と企業立地の促進
 - 地産地消[※]の推進
 - 交通・情報基盤の整備

中心市街地のにぎわいをつくる

広域都市圏の中心都市にふさわしいにぎわいづくりに向けて、JR松山駅や松山市駅などの主要な交通結節点やまちの顔である中心商店街、古い歴史に彩られた道後地区などにおいて、多様な世代が集い、交流する場や機会づくりを推進します。

- (主な施策)
- JR松山駅周辺整備事業・市駅前周辺再開発事業の推進
 - 中心商店街の活性化
 - 道後温泉本館周辺の整備

※地産地消

地元（地域）で生産されたものを地元（地域）で消費するという考え方の略語で、地域住民や観光客などが、その土地で穫れた産物をその土地で食べることで、安全・安心な食の提供や地域への理解を深めることができ、人々の交流が盛んになることが期待されている。

安全、安心日本一のまちづくり

節水型都市づくりを推進し、安定的な水資源を確保する

限られた水環境の中で、渇水に強い豊かでうるおいのあるまちを目指し、市民や企業、行政が一体となって節水を徹底するとともに、水資源の有効利用や保全に努めます。また、長期的水需給計画を策定し、これに基づく水資源開発に取り組み、日常生活や産業活動において安定した水資源の確保を図ります。

- (主な施策)
- 水資源の総合管理
 - 節水の促進
 - 水資源の有効利用
 - 水資源の保全
 - 水資源の開発

総合的な防災体制を確立する

災害発生時の被害を最小限にするために、被害が予想される箇所の対策を進めるとともに、消防・救急救助体制や迅速な復旧体制の充実に取り組みます。また、災害に関する日頃からの情報提供や防災意識の向上を図り、地域や家庭での自主防災への取り組みを促進します。

- (主な施策)
- 自主防災組織[※]の育成・活動支援
 - 危機管理体制の充実
 - 都市型水害[※]対策の推進

※自主防災組織

災害が発生した初期段階における消火活動や救護活動、避難誘導などを地域住民が主体になって行うための組織。大規模災害が発生し交通・通信基盤が遮断された場合には、行政による体制が整備されるまでの間、地元住民による活動が被害を最小限に食い止めるために重要とされている。

※都市型水害

都市化によって道路の舗装や建築物の増加などが進み、短時間・集中的に下水道や排水路に流入した雨水があふれ出すことでもたらされる浸水被害。